

## ノート

## ワーキングマザーのための機能的マタニティウェアの製品開発

藤田 薫子<sup>\*1)</sup> 平山 明浩<sup>\*1)</sup> 大泉 幸乃<sup>\*2)</sup>

## Product development of a functional maternity dress for working women

Kaoruko Fujita, Akihiro Hirayama, Yukino Ooizumi

キーワード：マタニティ，ワーキングマザー，

Keywords：maternity，working mother

## 1. はじめに

ワーキングマザーの就労人口は年々増加傾向にある。なかでも自身のキャリアや社会に対する貢献など各々，就労意義を求め生き生きと働く女性の姿が多く見られる。しかし，勤務中のワーキングマザーを支える職場環境や衣生活環境の整備はまだ充分ではないのが現状である。そこで更なる女性の社会進出を支援するため，体型変化の大きい妊娠期間における衣服について，ユニバーサルデザインの視点<sup>1)</sup>から取り組み，職場で働き易く快適に過ごせる機能的マタニティウェアの開発を試みた。

## 2. 内容及び結果

## 2.1 アンケート調査

マタニティウェアに対する意向，嗜好，ビジネス用マタニティに求められる機能について調査する目的で，表1のアンケート調査を実施した。

表1 アンケート調査

調査方法	インターネット調査
対象条件	現在妊娠中でありフルタイムで就業 1年以内に出産経験がありフルタイムで就業。
調査人数	全国在住20歳代女性100名 全国在住30歳代女性100名

## 調査結果

- (1)調節機能としてサイズ調節，体温調節，着脱への配慮，等の要望があった。  
(2)授乳口，ポケット，腰痛サポート等，便利機能の付加について要望があった。

## 2.2 既製品についての調査

現在，既製品として販売されているマタニティウェアの着用状況について表2のとおり面接調査した。

## 調査結果

- (1)体型をすっきりみせるストレートなシルエットのパンツが好まれた。(2)着脱しやすいお腹周りのニット素材と連動する，アジャスター仕様について改良の要望があった。

(3)ワンピースのパターンではセパレートの工夫が有効。

表2 既製品調査

調査項目	既製品10点(ボスミス：4点，トップス6点)の着用。 着心地，動きやすさ，機能性等。
調査人数	ワーキングマザー 6名
分析方法	製品を解きパターンを確認。 サイズ，デザイン，機能等を分析。

## 2.3 体型計測

サイズ調整機能を工夫するため，体型変化の大きい5ヶ月～10ヶ月まで隔週の体型を表3のとおり計測した。

表3 体型計測の内容

計測方法	メジャーによる計測
被験者数	ワーキングマザー 6名
計測力所	バスト，アンダーバスト，ウエスト，ミドルウエスト，ヒップ，ミドルヒップ，肩幅，着丈，背丈，身長

## 計測結果

- (1)6ヶ月以降からウエストが4cmピッチで増加。  
(2)バスト～ウエストまでの差異が少ない。

## 2.4 モデルボディの選定



図1. 製品開発用ボディ

計測結果をもとに，マタニティボディ(M9ヵ月：バスト94cm，ウエスト94cm，ヒップ97cm)を選定した(図1)。

## 2.5 試作品のための素材選定とデザイン作成

身体を動かしやすく，ビジネスウェアとして耐久性もあり，ストレッチ性が高く伸張回復性もある素材(ポリエステル

\*1) 墨田支所

\*2) 経営企画室

70%,ウール 26%,ポリウレタン 4%)をパンツ,スカートに使用した。デザインはアンケート結果を基に,サイズ調整,便利機能,快適性などに配慮した(表4)。

表4 デザインの特徴

アイテム	特徴
パンツ	ウエストサイズ調整,着脱容易性に配慮
スカート	上下のコーディネートバランスを考慮
ワンピース	ボックスシルエット,前身頃セパレート
カットソー	産後の使用も考慮し,授乳口を組み込む

### 2.6 立体裁断によるパターン作成

マタニティボディは,凹凸がはっきりしているため,シーチングによる立体裁断を繰り返し,原型を抽出した。この原型を基に平面によるパターン作成を行った。

試作品ではアンケート,既製品調査から産後の着用も考慮し授乳口を付加,ウエストのサイズ調節機能について5~7cmまでの伸縮性を組み込むこと,ウエストの広がりを強調させないことに注意した。また,腰にかかる負担を軽減させるパネルを組み込むことも試みた(図2)。



授乳口 サイズ調整ベルト 腰パネル

図2. 試作品の機能

### 2.7 モニターによる試作品の試着試験

表4のデザイン ~ 4点について,試作品を作成し,モニター6名の勤務中の着用試験を行った(図3)。



図3. オフィスでの試着試験

アンケート項目については,着脱,動き易さ,ゆとり,バランス,デザイン,生地風合い等8項目について,5段階評価を行った。その他,改良点,問題点をインタビューで抽出し,着用時の写真撮影を行った。

### 2.8 試作品と既製品の比較

試作品パンツの試着試験では,既製品パンツと比較して,下記の違いが認められた。

- (1)ウエストのサイズ調整がスムーズで,身体の動きを妨げず着脱しやすい,着心地よい等,高評価だった(図4)。
- (2)シルエットがボックスラインのため,横幅を感じさせず,すっきりと見えることが評価された。

既製品と比較/A試作品パンツ B既製品パンツ

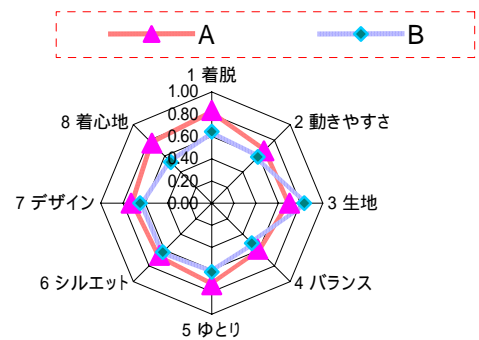


図4. 試着試験の結果(パンツ)

### 3.まとめ

アンケート,既製品調査,体型計測の結果からビジネス用マタニティウェア開発ポイントは以下とおりである。

アンケートの意向,嗜好調査により,ビジネス用マタニティの不可欠な機能が明確となった。

モニター体型計測で隔週毎の体型変化によるウエストサイズピッチ,勤務中の姿勢,身体の負担を感じる部位についてなど,リアルデータを抽出できた。

身体の負担を軽減させる,また仕事をする上で便利なポケットなどの機能,体型変化に対応するサイズ調整機能に配置したデザイン提案ができた。

数値データによる適合ボディを選定し,立体裁断による原型を作成し,体型特徴を出来るだけカバーするパターンを作成できた。

妊娠中のワーキングマザーから,機能性のあるマタニティウェアを切望する声が多く聞かれ,勤務中いかに快適に過ごすことを考え,工夫をしているか実態調査で浮き彫りになった。日々の業務を行う上で,快適で機能的なビジネス用マタニティウェアの重要性は,必要不可欠と考える。この研究成果を基に試作品に改良を加え,より製品としての完成度を高めたい。この結果を持って,「共同研究」による商品化,アパレル企業に向けた技術支援に活用し,市場活性化の一助としたい。

(平成19年6月28日受付,平成19年8月28日受付)

### 文 献

- (1) ユニバーサルファッション協会:ユニバーサルファッション宣言 P.10~11 中央公論新社(2002)